

# 企業と学生の協働、その成功の鍵

～地方都市で学生に求められる役割の考察～

1150427 園研究室 島巻 紀子

高知工科大学マネジメント学部

## 目次

はじめに

第1章 高知県とは(現状、中小企業について)

第2章 ケーススタディについて

2-1.台湾デザインプロジェクト概要

第3章 台湾デザインプロジェクト成功・失敗に分かれた分析

3-1.参加状況

3-2.因子分析

3-3.成功、失敗事例の共通項

3-4.地方企業のプロジェクト参加動機整理

3-5.成功と失敗の原因まとめ

3-6.小括

第4章 学生に必要とされる能力の考察

4-1.社会人基礎力とは

4-2.高知県の現状把握

4-3.プロジェクトを通じて実感できたこと

4-4.学生に必要とされる能力の考察

第5章 地方企業と地方大学生が協働するためには

【参考文献】

はじめに

～テーマ設定の動機・背景・目的・研究方法～

私は高知のコンサルタント会社に内定を頂いた。将来、高知の企業様と一緒に仕事をしていけるようなコンサルタントになりたいと思っている。

大学3年生の時に行ったプロジェクトでは、高知の企業様と一緒に仕事をさせてもらう機会があった。このプロジェクトでの経験を無駄にせず、将来の仕事に活かしていきたいと思い、このテーマを選んだ。本研究では、地方企業と学生が協働で物事を成し遂げる為に、学生に求められる能力を提案する。

本研究では、高知県の中小企業に焦点を当てて進めていく。

そのため、高知県の経済などについて調べた。

第1章 高知県とは(現状、中小企業について)

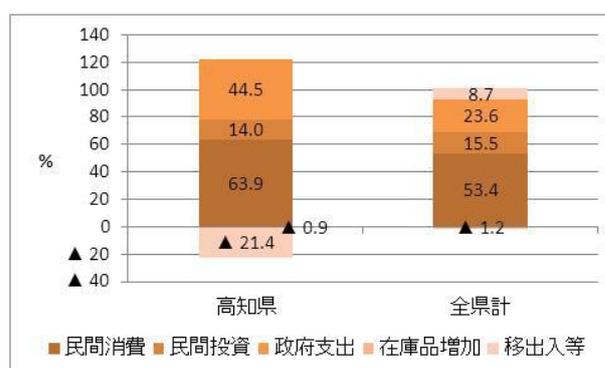
高知県の地理的環境は、面積約7105 km<sup>2</sup>、全国14位。面積のうち、森林率は8割を超える。インフラ面では、東西に長い地形の為、車社会である。自動車、路面電車、バスが交通機関として存在するが、新幹線は開通していない。

特徴としてあげると、物流が悪く、大学が不十分でない(工業系大学ができたのも最近のことである)、根幹産業がない、若年層の流出が激しい、森林率が高いことがあげられる。

人口推移を見ると、1970年後半までは増加傾向にあったが、1980年以降は県外流出が増加し、現在も人口は減少傾向にある。また、高齢化が進んでいる県でもあり、全国よりも10年早く高齢化が進んでいるといわれている。

高知県経済を見ると、県内GDPは約2.1兆円(2009年度、全国46位)と低い。下記グラフのGDP比率を見ても、政府支出の比率が高く、政府依存度が高い経済構造と言える。

高知県の名目GDP比率



引用：地域経済ラボラトリ

産業別GDP比率では、サービス業が一番高く25.5%を占める。その次に、政府サービス生産者(17.5%)、不動産業(13%)と続く。各産業の特化係数は、農林水産業、鉱業、政府サービス生産者が多い。そのことから、主要産業はサービス業・農林水産業で、政府に依存した経済構造と言える。

日本の企業数のうち、99.7%は中小企業であり、企業で働く従業員数の約66%は中小企業で働いている。今回焦点を当

てる高知県では99.8%が中小企業である。

ちなみに、中小企業とは、中小企業基本法第二条により定義されており、従業員規模と資本金規模で分類される。

## 第2章 ケーススタディについて

本研究では、2013年6月から2015年1月の間に行った台湾デザインプロジェクトをケーススタディとする。高知県の企業と大学生で協働したケーススタディを元に、高知県の企業と地方大学生の特性を把握する。分析したうえで、高知県の企業が大学生に求めているものは何かを分析し、地方で企業が大学生に求める能力・学生像の提案を行う。

### 2-1.台湾デザインプロジェクト概要

2013年6月から台湾デザインプロジェクト(以下、本プロジェクト)を行った。台湾デザインプロジェクトとは、高知の企業様に無料で商品パッケージなどのデザインを提供するプロジェクトである。デザインを作成するのは、台湾でデザインを専攻する環球科技大学・建国科技大学である。私たち高知工科大学園研究室(以下園研)は高知の企業と環球科技大学・建国科技大学、両者のコーディネーターを務めた。本プロジェクトは、高知の企業様に学生に実践・協働の場を提供して頂くかわりに、企業様にビジネスツールとしてのデザインを獲得してもらう、WIN-WINの関係のプロジェクトである。

## 第3章 台湾デザインプロジェクト成功・失敗に分かれた分析

### 3-1.参加状況

本プロジェクトでは、本受付企業10社のうち、成功が7社(※1)、失敗が3社と分かれた。ここでは、提示したデザイン採用に至った事例を成功、提示したデザインが不採用もしくは途中辞退となった事例を失敗とする。(※1:7社の中には、採用拒否後交渉により採用となった1社、提案デザインを一部採用の1社、計2社を含んでいる。)

ここで注目したいのは、成功と失敗の両方の事例が存在することである。成功と失敗を分かつものは何か、これから分析していく。

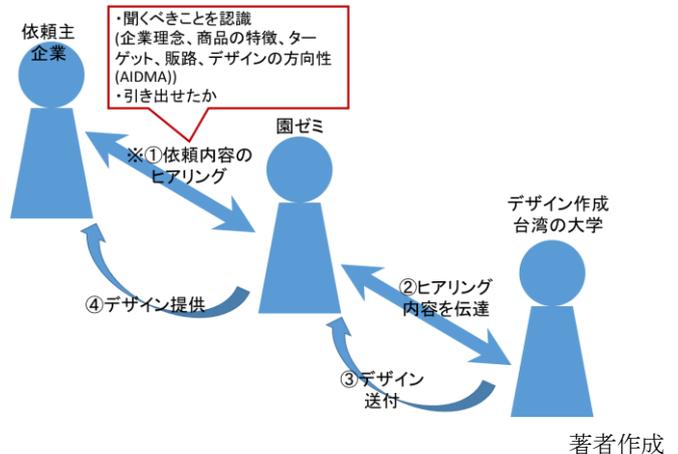
### 3-2.因子分析

本プロジェクトでは、依頼主の企業・コーディネーターの園ゼミ・デザイン作成の台湾の大学の3者が存在する。

本プロジェクトは①園ゼミが企業様から依頼内容のヒアリング②園ゼミが台湾の大学にヒアリング内容を伝達③台湾の大学が園ゼミにデザインを送付④園ゼミから企業様にデザイン

を提示、この4つの流れで進めた。ここでデザイン作成に特に重要だと思われる①依頼内容のヒアリングに関して分析していきたい。

### デザインプロジェクト遂行の流れ



①依頼内容のヒアリングにおいて、必ず達成しないといけないことは何だろうか。

①依頼内容のヒアリングにおいて、必要とされることを二つのステップに分類した。ステップ1は「学生の聞くべきことの認識」、ステップ2は「実践できたかどうか」である。

ステップ1に関して、園研ではヒアリングを行う前に(1)デザイン作成に必要な事項の把握(企業理念、商品の特徴、ターゲット、販路、デザインの方向性)、(2)研究室内でマーケティングの勉強会開催、(3)自分たちで作成したヒアリングシートを用い、ヒアリングが行いやすいように努力といった事前準備を行った。よって、ステップ1は達成していたと言えるだろう。次にステップ2に関してだが、以下のマトリクスを用いて分析していく。

### プロジェクト遂行のマトリクス

		企業	
		コンセプトが明確	コンセプトが不明確
学生	実践できた	該当なし	・日章農園(成功)
	実践できなかった	・菊水酒造(成功) ・サクセスフルエイジング(成功) ・デトワール(成功) ・味工房じねん(成功)	・ハート(失敗) ・横田きのこ(失敗) ・ワークウェイ(失敗)

著者作成

以上の図では、企業を「コンセプトが明確か不明確か」、大学を「ステップ2が実践できたかどうか」で分類していく。分類すると以下ようになる。

・A(企業：コンセプトが明確、学生：実践できた)

→該当なし

・B(企業：コンセプトが明確、学生：実践できなかった)

→菊水酒造(成功)、サクセスフルエイジング研究会(成功)、  
デトワール(成功)、味工房じねん(成功)

企業名	企業側の特徴・問題	学生側の特徴・問題
菊水酒造 (成功)	・コンセプト、販路、ターゲットが明確 ・目的意識が明確 ・報連相しっかりしている ・デザインに関する口出しはなし	・報連相不十分
サクセスフル エイジング研 究会 (成功)	・コンセプトが明確 ・デザイン色指定あり ・立ち上げ前のNPOで組織や事業など は不明確 ・デザインに関する口出しはなし	・特筆事項なし
デトワール (成功)	・コンセプトは明確 ・報連相不十分 ・デザインに関する口出しはなし	・特筆事項なし
味工房じねん (成功)	・コンセプトが明確 ・報連相しっかりしている ・デザインに関する口出しはなし	・報連相不十分 ・伝達ミスや確認ミスも あった

・C(企業：コンセプトが不明確、学生：実践できた)

企業名	企業側の特徴・問題	学生側の特徴・問題
日章農園 (成功)	・コンセプトが不明確 ・一緒に決めてほしいというスタ ンス ・競合店の動向を見るなど努力 ・デザインに関する口出しはなし	

→日章農園(成功)

・D(企業：コンセプトが不明確、学生：実践できなかった)

→ハート(失敗)、横田きのこ(失敗)、ワークウェイ(失敗)

企業名	企業側の特徴・問題	学生側の特徴・問題
ハート (失敗)	・コンセプト、ターゲットが不明確 ・依頼内容が変わりやすい ・自社店舗がない ・ルール違反 ・デザインに口出し多い	・報連相不十分
横田きのこ (失敗)	・コンセプトが不明確 ・第三者が間に入っていた ・学生任せ ・後付けの依頼追加があった ・デザインに口出し多い	・商品の特徴を把握し ていない ・最初に話を詰めてい なかった
ワークウェイ (失敗)	・コンセプトは明確 ・制約条件が多い依頼内容 ・学生任せ ・依頼内容が変わりやすい ・デザインに口出し多い	・報連相不十分 ・力不足

X(どれにも分類できない事例) →今回は対象外とする。

→高知中央ホーム、矢野運送

もう一度成功・失敗の事例に関して説明する。A の事例は  
該当がなかったが、両者ともに力があれば成功すると考えら  
れるので、A は成功と推察できる。

B・C を見ると、どちらかが力がかけているのにも関わらず、  
全て成功している。D は両者ともに力がないため、失敗した  
と言える。

ここで、B・Cに着目してほしい。今回のケースでは全て成  
功しているが、BCはともにどちらかが能力不足にあった。ゆ  
えに失敗するリスクをはらんでいたと言える。では、今回な  
ぜ、失敗する可能性もあったB・Cのケースが成功したのかを  
考えていきたい。

### 3-3.成功、失敗事例の共通項

企業名	企業側の特徴・問題	学生側の特徴・問題
菊水酒造 (成功)	・コンセプト、販路、ターゲットが明確 ・目的意識が明確 ・報連相しっかりしている ・デザインに関する口出しはなし	・報連相不十分
サクセスフル エイジング研 究会 (成功)	・コンセプトが明確 ・デザイン色指定あり ・立ち上げ前のNPOで組織や事業など は不明確 ・デザインに関する口出しはなし	・特筆事項なし
デトワール (成功)	・コンセプトは明確 ・報連相不十分 ・デザインに関する口出しはなし	・特筆事項なし
味工房じねん (成功)	・コンセプトが明確 ・報連相しっかりしている ・デザインに関する口出しはなし	・報連相不十分 ・伝達ミスや確認ミスも あった

まず、各 ABCD ごとに、企業側の特徴と学生側の特徴を記す。  
(今回 A は該当事例がない為省略する。)以下の表は B・C・D  
事例の企業・学生の特徴を述べたものである。

上記2つの図がB・Cの事例に関する情報だが、企業側の特徴  
を見ると、「デザインに関する口出しがない」ということが共  
通している。

逆に、失敗事例のDを見てみよう。

企業名	企業側の特徴・問題	学生側の特徴・問題
ハート (失敗)	・コンセプト、ターゲットが不明確 ・依頼内容が変わりやすい ・自社店舗がない ・ルール違反 ・デザインに口出し多い	・報連相不十分
横田きのこ (失敗)	・コンセプトが不明確 ・第三者が間に入っていた ・学生任せ ・後付けの依頼追加があった ・デザインに口出し多い	・商品の特徴を把握し ていない ・最初に話を詰めてい なかった
ワークウェイ (失敗)	・コンセプトは明確 ・制約条件が多い依頼内容 ・学生任せ ・依頼内容が変わりやすい ・デザインに口出し多い	・報連相不十分 ・力不足

## 4-4.学生に必要な能力とは② ★高知の社会人にインタビュー

Dでは、「デ  
ザインに関  
する口出し  
が多い」「コ

①高知県企業向け就職活動セミナー  
・採用して長続きするのは高卒>大卒

・高卒を採用する傾向が高い  
②高知県のコンサルタントの方

・高知の経営者は数字に弱い  
・高知の経営者は計画立案能力が低い

・やる気がある人が少ない  
・高知は職人気質の人が多い

・高知の会社と仕事をするには信頼されることが大事  
・人材不足→何でもマルチにこなせる能力が必要

コンセプトがないのに要求が多い」ことが共通としてあげられる。よって、成功・失敗を分けるのは「デザインへの口出しの有無」にあると言える。失敗に至る理由は「コンセプトがない」「要求が多い」ことにあると言える。

### 3-4. 地方企業のプロジェクト参加動機整理

次に、なぜ企業が本プロジェクトに参加したのか、その動機を以下に示す。

- ①成果が欲しい(デザイン、話題性など)
- ②学生支援、の2つが挙げられる。

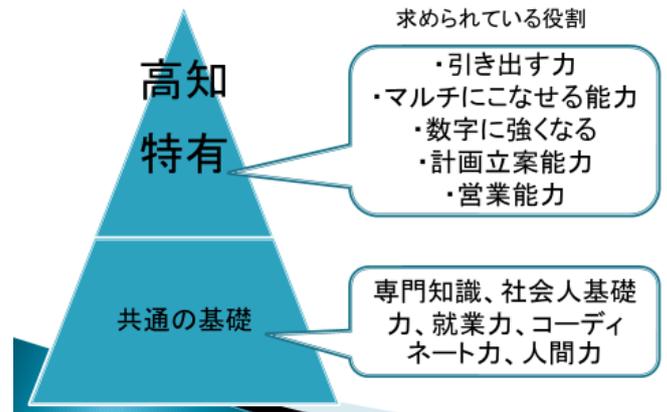
①は全ての企業が該当する。また、②を挙げていた企業は数社存在したが、成功と失敗に分かれた。その別れた原因は、「コンセプトの有無」が挙げられる。つまり、コンセプトが不明確だと、失敗するということが分かる。今回、プロジェクトを遂行して分かった地方企業の特徴は、コンセプトが不明確な企業が多いということである。

## 第4章 学生に必要とされる能力の考察

### 4-4. 学生に必要とされる能力の考察

私の思いでは「コンセプトが明確な企業と協働したい」が、地方企業の現実には「コンセプトが不明確な企業が多い」というギャップが存在する。コンセプトが明確な企業と協働すれば、学生も成長できるだろう。だが、現実を見るとコンセプトが明確な地方の企業は多くない。コンセプトが不明確なことを批判するのではなく、どうすれば一緒に協働できるのか、また、それを達成するには学生側にはどんな能力が必要とされるのかを提案したい。私は「地方企業と協働するには学生が能力を身に付けることが必要」だと考えている。では学生に必要とされる能力とは何か？それをこれから提案したい。今回の卒論の目的は大学生に必要な能力を考察することである。大学生に必要な能力は、①基礎としての専門知識、社会人基礎力、就業力、コーディネート力、人間力 ②高知で働くために必要とされる能力は要望や意見を引き出す力、マルチにこなせる力、数字に強くなる、計画立案能力、営業能力である。①②を身に付けることができれば、高知の企業と協働することが出来ると私は考える。

## 身に付けるべき能力の提案



### 参考文献

- [1] 平野真：地域発「価値創造」企業 株式会社ケー・ユー・ディー
- [2] 清成忠男：地域創生への挑戦 経済産業省
- [3] 「地域活性化の為のビジネス方法論 高知新聞社
- [4] 高知工科大学大学院起業家コース：農業ビジネス学校 株New York Art
- [5] 平成 25 年中小企業実態基本調査（速報）の概況
- [6] 日本銀行高知支店ホームページ
- [7] <http://www3.boj.or.jp/kochi/>
- [8] 帝国データバンク「高知県の産業構造分析調査」  
[https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s110201\\_73.pdf](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s110201_73.pdf)
- [9] 経済産業省による商工業実態基本調査  
[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/syokozi/resul](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/syokozi/result-2/h2c6k5aj.html#menu0)
- [10] 社会人基礎力 経済産業省  
[http://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/life/22662\\_55714\\_misc.pdf](http://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/life/22662_55714_misc.pdf)